（別紙様式３）

教　高　第４８５１号
令和４年(2022 年)３月 31 日

完了報告書

文部科学省初等中等教育局長　殿

住所　北海道札幌市中央区北３条西７丁目
管理機関（代表の機関）名　北海道教育委員会
代表者名　教育長　倉本　博史

令和３年度マイスター・ハイスクール事業に関わる完了報告書を，下記により提出します。

記

１　事業の実施期間

令和３年６月 22 日（契約締結日）～令和４年３月 31 日

２管理機関

①管理機関（市区町村・都道府県）

ふりがな 管理機関名	しんひだかちょう 新ひだか町
代表者職名	町長
代表者職名	大野　克之

②管理機関（産業界）※２団体以上ある場合は，適宜，欄を追加して記入してください。

ふりがな 管理機関名	じぇいえーしずない ＪＡしずない
代表者職名	代表理事組合長
代表者氏名	片岡　　博

③管理機関（学校設置者）

ふりがな 管理機関名	ほっかいどうきょういくいいんかい 北海道教育委員会
代表者職名	教育長
代表者職名	倉本　博史

３　指定校名

学校名　　北海道静内農業高等学校
学校長名　　佐藤　裕二

４　事業名　　地域発次世代イノベーター人材の育成～持続可能な日高農業の創り手～

５　事業概要

北海道は，日本はもとより世界の食糧基地であり，その中で，日高地方は日本最大の馬産地でもある。日高地方に位置している新ひだか町では，人口減少などにより，将来，基幹産業を支える人材が不足し，地域産業が衰退することが危惧されている。そのため，地域産業の持続的発展をけん引できる人材の確保・育成が急務となっている。このことから，地域の産業界（ＪＡ，ＪＲＡなど）や自治体（新ひだか町長や北海道全体を見渡せる知事部局（農政部）が全面支援），学校（静内農業高校は，全国一の第一次産業集積地である北海道にあり，園芸・食品・畜産・馬産，農業を支える人材を総合的に育成している国内随一の高校），これら三者が協働で人材育成を図り，地域創生につなげる事業とする。

６　学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

・学校設定教科・科目　　開設している　　・　　開設していない

・教育課程の特例の活用　　活用している　　・　　活用していない

７　意思決定機関の体制（マイスター・ハイスクール運営委員会）

氏名	所属・職
大野　克之	新ひだか町・町長　　＜委員長＞
西村　和夫	JA しずない・副組合長　＜副委員長＞
倉本　博史	北海道教育委員会・教育長
北村　英則	北海道日高振興局・局長
瀬尾　英生	北海道経済連合会・専務理事
河原　秀幸	新ひだか町商工会・会長
松井　克行	北海道農政部生産振興局技術普及課・首席普及指導員
遊佐　繁基	日本軽種馬協会静内種馬場・場長
諏訪　勝巳	国分北海道株式会社・代表取締役社長
大塚　浩通	酪農学園大学・獣医学群獣医学類教授
森　　順子	株式会社ハッピーアロー代表取締役
佐藤　裕二	北海道静内農業高等学校長
長尾　智美	北海道静内農業高等学校 PTA 副会長

８　事業推進機関の体制（マイスター・ハイスクール事業推進委員会）

氏名	所属・職
桑名　真人	北海道静内農業高など学校・ﾏｲｽﾀｰ･ﾊｲｽｸｰﾙCEO （北海道農政部生産振興局・技術支援担当局長）
中西　信吾	北海道静内農業高など学校・ﾏｲｽﾀｰ･ﾊｲｽｸｰﾙ産業実務家教員 （日本軽種馬協会静内種馬場・獣医師）
藤井　隆史	北海道教育庁学校教育局高校教育課・指導主事
深戸　紀明	北海道教育庁日高教育局高など学校教育指導班主査
中村　英貴	新ひだか町総務部まちづくり推進課・課長
宮町　良治	日高農業改良普及センター・所長
佐久間信行	北海道静内保健所・所長
椿　　淳	北海道経済連合会・食クラスターグループ総括部長

大谷　武史	国分北海道株式会社・顧問
渡辺　勝造	新ひだか町商工会・事務局長
佐藤　裕二	北海道静内農業高等学校・校長
加藤　和則	北海道静内農業高等学校・教頭
池田　　功	北海道静内農業高等学校・事務長
平岡　賢一	北海道静内農業高等学校・農場長
中谷　　元	北海道静内農業高等学校・教務部長
加藤　　真	北海道静内農業高等学校・進路指導部長
小林　　忍	北海道静内農業高等学校・生産科学科主任
澤田　英典	北海道静内農業高等学校・普通科主任
須古　洋晴	北海道静内農業高等学校・英語科主任
小山内一弘	北海道静内農業高等学校・情報担当
土田　隆太	北海道静内農業高等学校・英語科

９　管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
運営委員会					○		○			○		
授業力向上セミナー							○					

(2) 実績

北海道教育委員会としては，事業の開始に当たり，運営委員やCEO，産業実務家教員を委嘱するため，学校や新ひだか町，ＪＡしずない，北海道農政部などと連携し，有識者の紹介を行った。また，運営委員会の開催に当たり，委員への通知や資料の作成などについて取りまとめ，進行を担った。CEOが兼職であったことから，CEOとの連携を密にし，学校がスムーズにCEOと連携が図れるよう，常に情報共有するよう努めるとともに，関係機関との連携を密にするため，訪問し事業への理解を得るよう取り組んだ。

10月には，外部講師を依頼している企業からの要望があり，学校が企画した「授業力向上セミナー」に，民間講師とともに，高校教育課の農業担当指導主事が講師として対応した。

また，「マイスター・ハイスクールだより」を３回発行し，本事業の取組が地域との連携に係る教育活動を実施する際の参考となるよう全道の高校に周知した。

新ひだか町としては，道教委とともに運営委員などの委嘱に当たり，学校に対して助言を行うほか，地元自治体として，地域の課題について生徒が考える機会を設けるなど，事業を支援した。また，新ひだか町の大野町長は，運営委員会の委員長として，議事の進行及び議論の取りまとめを行った。

ＪＡしずないとしては，新ひだか町と連携を図りながら，主に日高農業の学習について，学習機会を設けるなど，学校への支援を実施した。また，西村副組合長は，運営委員会の副委員長として，委員会の円滑な進行を支援した。

10　事業の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ア　町の現状と将来像				○						○		
イ　町長講話				○								
ウ　職業人材による講話			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エ　教育課程の刷新	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
オ　施設見学及び実習			○	○	○	○	○	○	○	○		○
カ　各種検定(資格)							○			○		
キ　ｷｬﾘｱﾊﾟｽﾎﾟｰﾄの活用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ク　事業推進委員会		○	○	○	○	○	○	○		○	○	

(2) 実績の説明

ア　町の現状と将来像(生徒が主体的に町の現状と将来像，地域産業の現状を把握して考察)

「日高の農業を知る」「未来の日高農業の展望」では，日高農業改良普及センター所長　宮町　良治　様をお招きし，日高地域の農業概要，関係機関の取組，地域の振興品目の現状と新規就農者の支援制度などについて，授業を実施した。生徒が，日高の農業の課題を理解し，地域振興につながる課題を発見するよう指導した。

イ　町長講話(新ひだか町長による地域が求める人材や職業人に関わる講話)

「新ひだか町長と地域の未来を考える会」では，新ひだか町長　大野　克之　様をお招きし，問題解決型ディスカッションを実施した。大野町長への質問の作成や大野町長の考え方を聞くことにより，生徒が，新ひだか町の実態や将来の姿を考察できるよう指導した。

ウ　職業人材による講話(職業人材による講話などを踏まえ，生徒が地域の将来について考察)

(ｱ) 食品科学科

食品科学科では，北海道経済連合会，国分北海道株式会社と連携し事業推進委員会が中心となってカリキュラム作成を行った。

「食品流通のしくみと働き」の学習では，国分北海道株式会社人事総務部　松本　智貴　様をお招きして，卸売業者ならではの視点から商品の流通過程などについて，授業

を実施した。生徒が，食品の流通に関する体系的な知識や技術を理解できるよう指導した。

「食品表示」の学習では，国分北海道株式会社から地域共創部商品共創課主任　大井嘉明 様をお招きして，食品表示に関する法律や表示方法などについて，授業を実施した。生徒が，食品の表示方法を様々な事例を通して理解できるよう指導した。

「食品加工」「原料生産」の学習では，カゴメ株式会社北海道支店営業二課長　河野崇　様，営業推進課フードプランナー　竹本　莉奈　様，野菜事業部ソリューショングループ課長　佐塚　拓彦　様をお招きして，原料調達や商品開発までの一貫した流れや，企業の実践事例をもとにしたマーケティング，ブランディングなどについて授業を実施した。生徒が，農業や食品産業の各分野に関連する体系的な知識や技術を理解できるよう指導した。

「食品の栄養」の学習では，国分北海道株式会社地域共創部商品共創課　鳴海　絢子様，鈴木　美凪　様，フードサービス事業部営業一課営業業務担当主任補　谷内　里穂様，地域共創部商品共創部主任補　武藤　柚香　様，藤女子大学食物栄養学科准教授　奥村 昌子　様をお招きし，食品の成分，機能性食品の特性や有用性などについて，授業を実施した。生徒が，食品栄養に関する体系的な知識や技術を理解できるよう指導した。

「商品開発」の学習では，国分北海道株式会社顧問　大谷　武志　様をお招きして，消費者の購買行動やインターネット時代の購買行動モデル，４Ｐ理論などについて，授業を実施した。生徒が，商品開発に関する系統的な知識や技術を，理解できるよう指導した。

「市場調査・環境分析，食のマーケティング」の学習では，日糧製パン株式会社営業本部マーケティング部部長　森安　朋子　様をお招きして，企業の実践事例をもとに，マーケティングの果たす役割や，市場調査から店舗における消費動向の把握などについて，授業を実施した。生徒が，マーケティングの重要性や，商品開発の一連の流れに関連する系統的な知識や技術を理解できるよう指導した。

「食品関連産業の実態」の学習では，石屋製菓株式会社経営管理部部長　柳澤　和宏様，ベル食品株式会社開発部部長　中島　隆志　様をお招きして，企業理念や製品の衛生管理の重要性などについて，授業を実施した。生徒が，商品の開発から製造，衛生管理やブランディングなどの企業の取組を理解できるよう指導した。

「北海道の食品流通」の学習では，株式会社セコマ企画本部販売企画部次長　三浦公裕　様をお招きして，マーケティングや商品の魅力を最大限に紹介するための方法などについて，授業を実施した。生徒が，商品のPR方法，人口減少地域のマーケティング方法や地域の食材を生かした商品開発を理解できるよう指導した。

「食の安全，安心」の学習では，食品安全協会事務局長　小谷　雅紀　様をお招きして，食品の品質を保証する法制度や製造工程における危害要因などについて，授業を実施した。生徒が，食品の安全に関する体系的な知識や技術を理解できるよう指導した。

(ｲ) 生産科学科馬事コース

生産科学科馬事コースでは，中西信吾産業実務家教員と日本軽種場協会，日高軽種馬農業協同組合と連携して，カリキュラム作成を行った。

「馬の蹄」の学習では，日本軽種場協会静内種馬場装蹄師　金子　大作　様をお招きして，蹄の構造や特徴と飼養管理との関連性，蹄管理の実践などについて授業を実施した。生徒が，馬の飼育管理や蹄管理における課題を合理的に解決できるよう指導した。

「馬の獣医療」の学習では，本校の産業実務家教員　中西　信吾　先生が競走馬に多発する疾病などについて授業を実施した。生徒が，競走馬の特性や，飼育に関する課題を理解できるよう指導した。

「馬の産業」の学習では，産業実務家教員　中西　信吾　先生，オーストラリア在住のSatomi Oka Bloodstock Pty Limited　岡　さとみ　様，日本中央競会日高育成牧場　遠藤　洋郎　様をお招きして，各国の競走馬生産の特性や競走馬の流通などについて授業を実施した。生徒が，日本の競馬産業の特長を客観的に生徒に理解できるよう指導した。

「大動物の医療」の学習では，酪農学園大学獣医学群獣医学類教授　大塚　浩通　様に依頼し，動物の免疫獲得機構やウイルス，ワクチンなどについてオンラインで授業を実施した。生徒が，大動物の免疫機能に関する系統的な知識や技術を理解できるよう指導した。

(ｳ) 生産科学科園芸コース

生産科学科園芸コースでは，北海道農政部，日高農業改良普及センターと連携してカリキュラム作成を行った。

「農薬の特性と防除」の学習では，北海道立総合研究機構病虫部予察診断グループ研究主幹 小松　勉　様，病虫部病害虫グループ研究主幹　西脇　由恵　様をお招きし，施設園芸における病害虫やその発生状況，病状の診断や防除などについて，教室と栽培圃場で授業を行った。生徒が，病虫害の発生要因と診断，防除のポイントに関する体系的な知識を理解できるよう指導した。

「土壌の管理と改良」の学習では，北海道立総合研究機構農業環境部環境保全グループ主査　八木　哲生　様，生産技術グループ研究主幹　福川　英司　様，生産技術グループ主査　杉川　陽一　様，生産技術グループ研究主任　小谷野　茂和　様をお招きし，土壌の役割や診断方法，生理障害などについて，授業を実施した。生徒が，土壌特性の診断や評価方法に関する体系的な知識や技術を，理解できるよう指導した。

「農業における情報の分析と活用」の学習では，株式会社日本農業新聞北海道支所販売担当　福原　亮佑　様をお招きし，農業新聞の紙面構成の特徴や記事の読み取り方などについて，授業を実施した。生徒が，農業に関するものの見方や考え方が深まるよう指導した。

「地域園芸の特性と栽培技術」の学習では，北海道農政部生産振興局技術普及課から上席普及指導員　川口　招宏　様と上席普及指導員　佐藤　元紀　様をお招きし，地域の主力農作物の栽培の要点や，新しい栽培技術などについて授業を実施した。栽培に関するものの見方や考え方を，生徒に深めさせるよう指導した。

「GAPを活用した生産工程の管理」の学習では，日高農業改良普及センター主査（情報・クリーン・有機）小林　佐代　様をお招きし，GAPの５つの観点の重要性やSDGsとGAPの関連性（持続的農業の実践）などについて，授業を実施した。生徒が，GAPに基づいた体系的な栽培管理を理解できるよう指導した。

「農業の起業家計画」の学習では，新ひだか町産業建設部農政課・農産グループ主幹 飯田 裕紀 様，JAしずない営農課　丹野　純一　様をお招きし，新規就農に関わる新ひだか町の支援策や農協の助成制度などについて，授業を実施した。生徒が，新規就農するための道筋や助成制度，研修制度などを理解できるよう指導した。

「新たなアグリビジネスへの取組」の学習では，日高農業改良普及センター主査（高付加価値化）菊地　紀代美　様をお招きし，６次産業化や地域農業で活用が期待される

取組などについて授業を実施した。生徒が，農業経営における高付加価値化の重要性を理解できるよう指導した。

(ｴ) 学科共通の事業

「北海道の食品流通」の学習では，株式会社セコマ代表取締役会長　丸谷　智保　様をお招きし，テーマを「北海道の食を支えるー既成概念にとらわれないビジネスモデルー」として，ご講演いただいた。生徒が，人口減少など地域の抱える課題にどのように取り組むべきか，主体的に考えるよう指導した。

「農業や地域の魅力を発見，発信する」の学習では，北海道放送からプロデューサー栗山　亘　様と，アナウンサー　森　結有花　様をお招きし，「伝えることの大切さ」をテーマとして，ご講演いただいた。生徒が，農業の面白さや魅力発信の重要性を理解できるよう指導した。

「新しいアグリビジネス」の学習では，umamill株式会社COO　松原　壮一朗　様に依頼し，「ＩＴによる新しい食品輸出」として，オンラインでご講演いただいた。生徒が，食品の輸出や電子決済など農業のグローバル化について考えられるよう指導した。

科目「課題研究」では，７つの専攻班により，プロジェクト学習に取り組んでいる。この学習を通して,生徒が，地域産業の課題や実態について，より深く理解し，実践的に研究活動に取り組むとともに，関係企業，団体と連携して地域課題を確実に解決できるよう指導した。

エ　教育課程の刷新(教育課程の刷新の方向性を検討・改善（次年度，学校設定科目を設定））

教育課程委員会を６回実施し，教育課程編成に取り組んだ。各学科の教育内容を明確化するとともに，獣医師志望者や４年生大学望者の対応などについて，協議した。開催内容は次のとおりである。

(ｱ) 第１回　4月15日(金)
- 学校教育目標，育成したい資質能力，教育課程編成の方針の確認
- 教育課程案の作成
- マイスター・ハイスクール事業に伴う教育課程刷新の方向性の検討

(ｲ) 第２回　５月13日(木)
- 普通教科・科目の設定
- 農業教科・科目の調整

(ｳ) 第３回　６月２日(水)
- 単元配列表(教科横断的な学習計画)の作成
- 獣医師，４年制大学進学希望者への対応
- 農業教科・科目の調整

(ｴ) 第４回　９月８日(水)
- 農業教科・科目の調整
- 獣医師，４年制大学進学希望者への対応

(ｵ) 第５回　11月26日(金)
- 令和４年度入学生教育課程表の確認
- 令和４年度学年別教育課程の調整

(ｶ) 第６回　２月１日(火)
- 令和４年度入学生教育課程表の確認

・令和４年度学年別教育課程の確認

オ　施設見学及び実習（施設見学及び実習など施設・設備の共同利用（産業界，農業関連施設，大学など））

(ｱ) 食品科学科

「食のバリューチェーン」の学習では，国分北海道株式会社帯広総合センターを視察し，物流システム部　中村哲也　様，森　智紀　様から物流施設や設備，品質の管理などについて，説明いただいた。生徒が，物流の現状を学習し，食品流通の体系的な知識や技術を理解できるよう指導した。

「原料生産」の学習では，農研機構北海道研究センターを視察し，研究推進部事業化推進室事業化推進室長　瀧川　重信　様から農研機構北海道センターの概要と，農業生産分野での研究活動の概要について，説明をいただいた。生徒が，試験研究が農業の振興に果たす役割について考えるよう指導した。

(ｲ) 生産科学科馬事コース

「競走馬の初期育成」の学習では，日本中央競馬会日高育成牧場を訪問し，専門役　遠藤　洋郎　様，診療防疫係長　岩本　洋平　様，研究役　琴寄　泰光　様から日常の躾と調教に関わる実習を実施した。生徒が，競走馬の販売に必要な躾や調教の技術を向上できるよう指導した。

「馬の産業」の学習では，日本中央競馬会札幌競馬場を訪問し，副場長　勝木　亮司　様から施設の概要や競馬の運営について，説明をいただいた。また，日本軽種馬協会静内種馬場を訪問し，産業実務化教員　中西　信吾　先生から競走馬生産に関わる諸団体の役割や施設，設備の概要について，説明をいただいた。生徒が，競馬に関わる関係団体の役割や，施設の種類や役割を理解できるよう指導した。

「競走馬の繁殖」の学習では，日本中央競馬会日高育成牧場を訪問し，診療防疫係長 岩本 洋平　様から，競走馬の繁殖生理や繁殖管理に関わる技術について授業を実施した。生徒が，馬の繁殖や栄養に関する体系的な知識や技術を習得できるよう指導した。

「乗馬」の学習では，日本中央競馬会日高育成牧場を訪問し，業務課長　立野　大樹　様，乗馬普及係チーフ　堀　光広　様から騎乗実習を中心に障害飛越誘導や日本中央競馬会教官による馬術供覧などについて，ご指導いただいた。生徒の騎乗技術が向上するよう指導した。

「馬の調教と利用」の学習では，日本中央競馬会日高育成牧場を訪問し，専門役　遠藤 洋郎　様，診療防疫係長 岩本 洋平 様から，馬の躾や調教についてご指導いただいた。生徒が，個体の特性に応じた調教技術を身に付けられるよう指導した。

「馬の獣医療」の学習では，日本軽種馬協会静内種馬場を訪問し，産業実務家教員　中西　信吾　先生よる馬の去勢手術についてご指導いただいた。生徒が，獣医療に関する基本的な知識や技術を理解できるよう指導した。

(ｳ) 生産科学科園芸コース

「日高の農業を知る」学習では，ミニトマト栽培農家である有田農場，デルフィニウム栽培農家である金森農場，ピーマン栽培農家である今野農場を視察した。日高農業改良普及センター地域第一係長　伊藤　貴人　様に解説をいただいた。生徒が，栽培体系の違いや収量特性の違いを理解できるよう指導した。

(ｴ) 学科共通の事業

「上級学校を知る」学習では，１年生が北海道大学農学部を視察し，北海道大学大学院農学研究院地域連携経済学准教授　小林　国之　様，教授　石塚　敏　様，講師　実山　豊　様から北海道大学の概要や研究室の説明，模擬授業を実施していただいた。生徒が，大学の概要や農学部の研究内容について理解できるよう指導した。

「ｅコマース」の学習では，ヤフー株式会社ＳＲ推進統括本部の職員の皆様と連携し１年間にわたり商品紹介用の写真撮影や紹介文書の作成など，インターネットショッピングサイトの開設について，継続的に授業を実施した。生徒が，インターネットショッピングサイトを活用した商取引を実践できるよう指導した。

「国際交流」の学習では，新ひだか町の姉妹都市である米国，ケンタッキー州レキシントン市にある，フレデリック・ダグラス高校の生徒と教育用ＳＮＳプラットフォームを利用したオンライン交流を行った。生徒の英語を活用したコミュニケーション能力が高まるよう指導した。

「異文化理解」の学習では，北海学園大学経営学部教授　内藤　永　様をお招きして，「グローバル企業ではどのような英語が使われているの？」をテーマとして，２マス英会話の実践やワークショップ形式で，自分の考えを伝える授業を実施した。生徒が，さまざまな方法で相手に自分の考えを正しく伝えることの大切さを理解できるよう指導した。

「農業分野の国際協力」の学習では，ＪＩＣＡシニアボランティアを経験した　五十嵐　龍夫　様をお招きし「World Study　パラグアイでのボランティア・生活・文化」をテーマとして，パラグアイの生活や農業指導の状況について授業を実施した。生徒が，グローバルな視点で英語を学ぶことや，農業を学ぶことの重要性を理解できるよう指導した。

カ　各種検定（資格）（各種検定試験（資格）に対する理解を深め，受験に挑戦する心身の醸及び受験）

全校生徒を対象に「資格取得講習会」を実施し，資格取得の意義や具体的な学習方法などを説明し，受験に対する生徒の理解を高めるよう指導した。検定ごとに担当者から詳細な試験内容を案内するとともに，講習会を実施し，生徒が合格に向けて意欲的に取り組むよう指導した。

キ　キャリア・パスポートの活用（指定期間において継続して活用）

進路指導部において，国立教育政策研究所が示したキャリア・パスポートを参考事例とし，本校の実態に合わせたキャリア・パスポートを作成した。ＬＨＲなどの時間を活用して取り組み，活動を記録し蓄積することを通して，「振り返り」と「見通し」を繰り返すよう生徒に指導した。

ク　事業推進委員会の開催

事業推進委員会は，主に食品科学科，生産科学科馬事コース，生産科学科園芸コースの部門ごとに開催した。本校の立地条件を考慮し，オンラインミーティングを積極的に活用して事業が円滑に実施できるよう取り組んだ。開催内容は，次のとおりである。

実施日	場所	参集者	内容
5 月 17 日(月)	日本軽種馬協会 静内種馬場	日本軽種場協会静内種馬場 　場長　遊佐繁基様　獣医師　中西信吾様 北海道静内農業高など学校 　校長　佐藤裕二　教頭　加藤和則　教諭　小林忍	事業概要の説明
6 月 3 日(木)	日高農業改良普及センター	日高農業改良普及センター 　所長　宮町良治様　主任普及指導員　太田浩太郎様 北海道静内農業高など学校 　教頭　加藤和則　教諭　三浦創	園芸事業計画に関する打合せ
6 月 4 日(金)	日高農業改良普及センター	日高農業改良普及センター 　所長　宮町良治様　主任普及指導員　太田浩太郎様 北海道静内農業高など学校 　教頭　加藤和則　教諭　三浦創	園芸事業計画に関する打合せ
6 月 7 日(月)	日本軽種馬協会 研修センター	日本軽種場協会静内種馬場 　獣医師　中西信吾様 北海道静内農業高など学校 　教諭　小林忍	馬部門事業計画の方針に関する打合せ
6 月 14 日(月)	日高農業改良普及センター	日高農業改良普及センター 　主任普及指導員　太田浩太郎様 北海道静内農業高など学校 　教諭　三浦創	園芸部門事業に関わる講師選定に関する打合せ
6 月 17 日(木)	日高農業改良普及センター	日高農業改良普及センター 　主任普及指導員　太田浩太郎様 　主査　小林佐代様 北海道静内農業高等学校 　教諭　三浦創	園芸部門事業内容に関する打合せ
6 月 22 日(火)	(1)酪農学園大学 (2)北海道教育委員会 (3)北海道経済連合会 (4)北海道農政部 (5)国分北海道株式会社 (6)北海道放送	(1) 酪農学園大学教授　大塚浩通様 (2) 北海道教育委員会 　高校教育課課長補佐　髙田安利様 　高校教育課指導主事　藤井隆史様 (3) 北海道経済連合会 　専務理事　瀬尾英生様 　食クラスターグループ統括部長　椿淳様 (4) 北海道農政部 　生産振興局技術支援担当局長　桑名真人様 　技術普及課長　鈴木章代様 　技術普及課首席普及指導員　松井克之様 　農政課長　鈴木賢一様 　競馬事業室室長　赤池政彦様 　競馬事業室主管　太田訓英様 (5) 国分北海道 　経営統括部長兼人事総務部長兼地域共創部長 　　青山知夫様 　人事総務部人事総務課長　橋本吉人様 　地域共創部商品共創課主任　大井嘉明様 　物流システム部物流営業課主任　中村哲也様 　物流・システム部物流運営課主任補　森智紀様 　地域共創部商品共創課ＭＤ担当主任補　鳴海絢子様 　地域共創部商品共創課主任補　鈴木美凪様 　フードサービス事業部営業１課営業業務担当 　　兼地域共創部商品共創課主任補　谷内里穂　様 　量販事業部低温営業課営業担当兼地域共創部 　　商品共創課主任補　武藤柚香様 　人事総務部人事総務課 　　兼経営統括部主任　松本智貴様 (6) 北海道放送 　コンテンツ制作センター 　　統括兼情報政策部長　藤枝孝文様	表敬訪問，事業打合せ

	(7)北海道中央農業試験場	(7)北海道中央農業試験場 北海道農政部生産振興局技術普及科農業研究本部駐在（技術普及室）上席普及指導員　斯波肇様 独立行政法人北海道立総合研究機構 農業研究本部中央農業試験場 病虫部長　浅山聡様 農業環境部部長　渡邊祐志様 企画調整部企画課長　神野裕信様 北海道静内農業高等学校 校長　佐藤裕二　教諭　平岡賢一 教諭　千代武志　教諭　小林忍	
6 月 22 日(火)	日高農業改良普及センター	日高農業改良普及センター 主任普及指導員　太田浩太郎様 地域第一係長　伊藤貴人様　主査　千田智子様 北海道静内農業高等学校 教諭　三浦創	農家視察内容に関する打合せ
6 月 23 日(水)	日本軽種馬協会研修センター	日本軽種場協会静内種馬場(産業実務家教員) 獣医師　中西信吾 北海道静内農業高等学校 教諭　小林忍	事業計画の方針及び到達目標に関する打合せ
6 月 30 日(水)	(1)北海道総合研究機構 (2)北海道放送 (3)札幌テレビ	(1) 北海道総合研究機構 北海道農政部生産振興局技術普及科農業研究本部駐在（技術普及室）上席普及指導員　斯波肇様 独立行政法人北海道立総合研究機構 農業研究本部中央農業試験場 病虫部長　浅山聡様 農業環境部部長　渡邊祐志様 企画調整部企画課長　神野裕信様 (2) 北海道放送 コンテンツ制作センター統括 兼情報政策部長　藤枝孝文様 兼情報政策部プロデューサー　栗山亘様 情報政策センター報道部記者　木下純一郎様 (3) 札幌テレビ 取締役事業局長　坪内弘樹様 事業局次長兼コンテンツ部長　黒田育郎様 事業局コンテンツ部　大阪しの様 北海道静内農業高等学校 校長　佐藤裕二　教諭　平岡賢一	事業内容に関する打合せ
6 月 29 日(火)	日高農業改良普及センター	日高農業改良普及センター 所長　宮町良治様　主任普及指導員　太田浩太郎様 北海道静内農業高等学校 教諭　三浦創	北海道総合研究機構に依頼する授業内容に関する打合せ
6 月 29 日(火)	北海道静内農業高等学校	北海道静内農業高等学校(校内推進委員) 教頭　加藤和則　教諭　平岡賢一 教諭　千代武志　教諭　小林忍 教諭　三浦創　　教諭　田中彩佳	電子メールによる情報共有と業務用情報の整理について確認
7 月 7 日(水)	日高農業改良普及センター	日高農業改良普及センター 主任普及指導員　太田浩太郎様 地域第一係長　伊藤貴人様　主査　千田智子様 北海道静内農業高等学校 教諭　三浦創	農家視察先の選定に関する打合せ
7 月 9 日(金)	日本軽種馬協会研修センター	日本軽種場協会静内種馬場(産業実務家教員) 獣医師　中西信吾 北海道静内農業高等学校 教諭　小林忍	事業計画の作成及び授業内容に関する打合せ
7 月 16 日(金)	日本軽種馬協会静内種馬場	日本軽種場協会静内種馬場 場長　遊佐繁基様 獣医師(産業実務家教員)　中西信吾 北海道教育委員会 高校教育課指導主事　藤井隆史様 北海道静内農業高等学校 校長　佐藤裕二 マイスター・ハイスクール CEO　桑名真人 教頭　加藤和則	事前説明及び業務依頼

7 月 19 日(月)	日本中央競馬会日高育成牧場	日本中央競馬会日高育成牧場 場長　石丸睦樹様　研究役　村瀬晴崇様 業務課長　立野大樹様 北海道静内農業高等学校 校長　佐藤裕二　教頭　加藤和則 産業実務家教員　中西信吾	事前説明及び業務依頼
7 月 26 日(月)	新ひだか町役場	新ひだか町長　大野克之様 北海道静内農業高等学校 校長　佐藤裕二　教頭　加藤和則 教諭　平岡賢一	授業に関する打合せ
7 月 28 日(水)	日本軽種馬協会研修センター	日本軽種場協会静内種馬場 装蹄師　金子大作様 北海道静内農業高等学校 教頭　加藤和則 産業実務家教員　中西信吾　教諭　小林忍	事前説明及び業務依頼
7 月 30 日(金)	日高軽種馬農業協同組合	日高軽種馬農業協同組合 業務課長　小島謙治様 北海道静内農業高等学校 校長　佐藤裕二 産業実務家教員　中西信吾　教諭　小林忍	事前説明及び業務依頼
8 月 2 日(月)	日本軽種馬協会研修センター	北海道静内農業高等学校 教頭　加藤和則 産業実務家教員　中西信吾　教諭　小林忍	事業計画の確認
8 月 3 日(火)	北海道静内農業高等学校	日本農業新聞 販売担当　福原亮佑様 北海道静内農業高等学校 教頭　加藤和則　教諭　三浦創	農業における情報の分析と活用に関する打合せ
8 月 5 日(木)	(1)酪農学園大学 (2)北海道大学 (3)北海道放送	(1) 酪農学園大学　教授　大塚浩通様 (2) 北海道大学大学院　准教授　小林国之様 (3) 北海道放送 コンテンツ制作センター統括 兼情報政策部長　藤枝孝文様 兼情報政策部プロデューサー　栗山亘様 北海道静内農業高等学校 校長　佐藤裕二　教諭　平岡賢一	(1)獣医師志望者の進学に関する打合せ (2)視察研修に関する関する打合せ (3)講演に関する打合せ
8 月 5 日(木)	日本軽種馬協会研修センター	日本軽種場協会静内種馬場 場長　遊佐繁基様 日本中央競馬会日高育成牧場 場長　石丸睦樹様　総務部長　岡本邦彦様 北海道静内農業高等学校 教頭　加藤和則　教諭　小林忍	年間事業計画の概要説明，事業日程説明，協力依頼，指導助言
8 月 6 日(金)	日本軽種馬協会研修センター	北海道静内農業高等学校 産業実務家教員　中西信吾 教諭　小林忍	年間事業の日程及び内容・依頼先などの組立てに関する打合せ
8 月 10 日(火)	オンラインミーティング	北海道農政部生産振興局技術普及課 上席指導普及員　川口招宏様 北海道静内農業高等学校 教諭　三浦創	地域園芸の特性と栽培技術（ピーマン・トマト）の授業に関する打合せ
8 月 11 日(水)	オンラインミーティング	日高農業改良普及センター 主任普及指導員　太田浩太郎様 地域第一係長　伊藤貴人様　主査　千田智子様 北海道静内農業高等学校 教諭　三浦創	農家視察及び日程に関する打合せ
8 月 24 日(火)	(1)国分北海道株式会社 (2)北海道農政部 (3)北海道教育委員会 (4)札幌テレビ	(1) 国分北海道株式会社 代表取締役社長　諏訪勝巳様 経営統括部長兼人事総務部長兼地域共創部長 青山知夫様 (2) 北海道農政部 マイスター・ハイスクールＣＥＯ　桑名真人様 (3) 北海道教育委員会 高校教育課指導主事　藤井隆史様 (4) 札幌テレビ 事業局コンテンツ部　大阪しの様 北海道静内農業高等学校 校長　佐藤裕二　教諭　平岡賢一	(1)事業内容に関する打合せ (2)事業実施状況の報告 (3)事業実施状況の報告 (4)講演事業の実施に関わる打合せ

8 月 24 日(火)	オンラインミーティング	藤女子大学准教授　奥村昌子様 北海道経済連合会 　食クラスター統括部長　椿淳様 北海道静内農業高等学校 　教諭　平岡賢一　教諭　千代武志 　教諭　八尾健太郎　教諭　田中彩佳	事業内容の打合せ
8 月 26 日(木)	北海道静内農業高等学校	日高農業改良普及センター 　主査　小林佐代様 北海道静内農業高等学校 　教諭　三浦創	事業内容に関する打合せ
8 月 30 日(月)	日本軽種馬協会研修センター	日本軽種場協会静内種馬場 　装蹄師　金子大作様 北海道静内農業高等学校 　産業実務家教員　中西信吾　教諭　小林忍	日本中央競馬会による授業内容の確認及び調整に関する打合せ
9 月 2 日(木)	新ひだか町 　有田農場 　金森農場 新冠町 　今野農場	日高農業改良普及センター 　主任普及指導員　太田浩太郎様 　地域第一係長　伊藤貴人様　主査　千田智子様 北海道静内農業高等学校 　教諭　三浦創	農家視察先事前訪問
9 月 3 日(金)	北海道静内農業高等学校	北海道静内農業高等学校 　産業実務家教員　中西信吾 　教諭　小林忍	事業の最終確認及び機材調整に関する打合せ
9 月 3 日(金)	日本中央競馬会日高育成牧場	日本中央競馬会日高育成牧場 　場長　石丸睦樹様 北海道静内農業高等学校 　教頭　加藤和則 　産業実務家教員　中西信吾　教諭　小林忍	日本中央競馬会による事業内容の日程調整及び内容・講師選定に関する打合せ
9 月 11 日(土)	オンラインミーティング	北海道農政部生産振興局技術普及課 　花野菜センター駐在主任指導普及員　佐藤元紀様 北海道静内農業高等学校 　教諭　三浦創	事業内容に関する打合せ
9 月 15 日(水)	日高農業改良普及センター	日高農業改良普及センター 　主任普及指導員　太田浩太郎様 　主査　菊池紀代美様 北海道静内農業高等学校 　教諭　三浦創	事業内容に関する打合せ
9 月 17 日(金)	オンラインミーティング	株式会社ハッピーアロー 　代表取締役　森順子様 北海道教育委員会 　高校教育課指導主事　藤井隆史様 北海道静内農業高等学校 　教諭　平岡賢一	授業セミナーに関する打合わせ
9 月 24 日(金)	北海道静内農業高等学校	国分北海道株式会社 　顧問　大谷武史様 北海道静内農業高等学校 　教諭　平岡賢一　教諭　千代武志 　教諭　八尾健太郎　教諭　田中彩佳	事業内容に関する打合わせ 教育課程編成に関わる指導助言
9 月 29 日(水)	日本軽種馬協会研修センター	北海道静内農業高等学校 　産業実務家教員　中西信吾 　教諭　小林忍	事業内容に関する打合せ
9 月 30 日(木)	オンラインミーティング	石屋製菓株式会社 　経営管理部部長　柳澤和宏様 北海道経済連合会食クラスター統括部長　椿淳様 北海道静内農業高等学校 　教諭　平岡賢一　教諭　千代武志 　教諭　八尾健太郎　教諭　田中彩佳	事業内容に関する打合せ
10 月 5 日(火)	オンラインミーティング	ベル食品株式会社 　技術本部開発部部長　中島隆志様 北海道経済連合会食クラスター統括部長　椿淳様 北海道静内農業高等学校 　教諭　平岡賢一　教諭　千代武志 　教諭　八尾健太郎　教諭　田中彩佳	事業内容に関する打合せ
10 月 7 日(木)	オンラインミーティング	北海道総合研究機構　農業環境部生産技術グループ 　研究主幹　福川英司様　主査　杉川陽一様 　研究主任　小谷野茂和様 北海道静内農業高等学校 　教諭　三浦創	事業内容に関する打合せ

10 月 7 日(木)	オンラインミーティング	株式会社セコマ 広報部　遠藤佳代様 企画本部販売企画部次長　三浦公裕様 北海道経済連合会　食クラスター統括部長　椿淳様 北海道静内農業高等学校 校長　佐藤裕二　教諭　平岡賢一　教諭　千代武志 教諭　八尾健太郎　教諭　田中彩佳	事業内容に関する打合せ
10 月 14 日(木)	オンラインミーティング	日本食品安全マネジメント協会 事務局長　小谷雅紀様 普及推進グループ　大澤唯様 北海道経済連合会食クラスター統括部長　椿淳様 北海道静内農業高等学校 教諭　平岡賢一　教諭　千代武志 教諭　八尾健太郎　教諭　田中彩佳	事業内容に関する打合せ
10 月 19 日(火)	日本軽種馬協会研修センター	北海道静内農業高等学校 産業実務家教員　中西信吾 教諭　小林忍	事業内容に関する打合せ
10 月 21 日(木)	北海道静内農業高等学校	北海道静内農業高等学校 産業実務家教員　中西信吾 教諭　小林忍	事業内容に関する打合せ，通信テスト及び授業の最終確認
10 月 22 日(金)	オンラインミーティング	ウマミール株式会社代表取締役 COO　松原壮一朗様 北海道静内農業高等学校　教諭　平岡賢一	事業内容に関する打合せ
10 月 27 日(水)	日本軽種馬協会静内種馬場	日本軽種場協会静内種馬場 装蹄師　金子大作様 北海道静内農業高等学校 産業実務家教員　中西信吾　教諭　小林忍	事業内容に関する打合せ
11 月 4 日(木)	日本軽種馬協会研修センター	北里大学獣医学部准教授　松浦晶央様 北海道静内農業高等学校 産業実務家教員　中西信吾　教諭　小林忍	マイスター・ハイスクール事業の概要説明及び令和 4 年度に向けた打合わせ
11 月 8 日(月)	北海道静内農業高等学校	NTT ドコモ北海道支社法人営業部 ICT ビジネスデザイン担当課長　齋藤伸一様 ICT ビジデザイン担当　秋山紗永様 北海道静内農業高等学校 校長　佐藤裕二　　教頭　加藤和則 教諭　平岡賢一	マイスター・ハイスクール事業概要の説明
11 月 9 日(火)	(1)酪農学園大学 (2)NTT ドコモ 北海道支社	(1) 酪農学園大学 獣医学類教授　大塚浩通様 社会連携センター事務局次長　髙山基樹様 社会連携センター地域連携課課長　金子千恵様 (2) NTT ドコモ北海道支社法人営業部 ICT ビジネスデザイン担当部長　加藤尚記様 ICT ビジネスデザイン担当課長　齋藤伸一様 ICT ビジネスデザイン担当　秋山紗永様 北海道静内農業高等学校 校長　佐藤裕二　　教諭　平岡賢一	(1) 獣医師志望者の進学に関する打合せ (2)マイスター・ハイスクール事業説明，講演打合せ
11 月 16 日(火)	オンラインミーティング	日本食品安全マネジメント協会 事務局長　小谷雅紀様 普及推進グループ　大澤唯様 北海道経済連合会食クラスター統括部長　椿淳様 北海道静内農業高等学校 教諭　平岡賢一　教諭　千代武志 教諭　八尾健太郎　教諭　田中彩佳	事業内容に関する打合せ
11 月 19 日(金)	日本中央競馬会日高育成牧場	日本中央競馬会日高育成牧場 副場長　内藤裕司様 北海道教育委員会 高校教育課指導主事　藤井隆史様 北海道静内農業高等学校 マイスター・ハイスクール CEO　桑名真人 教頭　加藤和則 産業実務家教員　中西信吾　教諭　小林忍	事業実施後の挨拶及び助言

11 月 19 日(金)	日高軽種馬農業協同組合	日高軽種馬農業協同組合 　業務部長　小島謙治様 　北海道市場事業部部長　及川哲也様 北海道教育委員会 　高校教育課指導主事　藤井隆史様 北海道静内農業高等学校 　マイスター・ハイスクール CEO　桑名真人 　教頭　加藤和則 　産業実務家教員　中西信吾　教諭　小林忍	事業実施後の挨拶及び助言
11 月 26 日(金)	北海道静内農業高等学校	日本軽種場協会静内種馬場 　装蹄師　金子大作様 北海道静内農業高等学校 　教諭　小林忍	事業内容に関する打合せ
1 月 24 日(月)	オンラインミーティング	日糧製パン株式会社営業本部マーケティング部 　部長　森安朋子様 　商品企画課長　前川諒様 北海道経済連合会食クラスター統括部長　椿淳様 北海道静内農業高等学校 　教諭　平岡賢一　教諭　千代武志 　教諭　八尾健太郎　教諭　田中彩佳	事業内容に関する打合せ
2 月 4 日(金)	北海道静内農業高等学校	北海道経済連合会 　食クラスターグループ統括部長　椿淳様 　食クラスターグループ部長　渋沢淳一様 北海道静内農業高等学校 　教諭　平岡賢一　教諭　千代武志 　教諭　八尾健太郎　教諭　田中彩佳	令和 4 年度事業に関する打合せ
2 月 21 日(月)	オンラインミーティング	雪印メグミルク株式会社 　商品開発部長　畑本均様 　北海道本部関係会社統括部担当部長　熊谷秀樹様 　北海道本部副本部長　齋藤浩哉様 北海道経済連合会 　食クラスターグループ統括部長　椿淳様 　食クラスターグループ部長　渋沢淳一様 北海道静内農業高等学校 　教諭　平岡賢一　教諭　千代武志 　教諭　八尾健太郎　教諭　田中彩佳	事業内容に関する打合せ
2 月 22 日(火)	オンラインミーティング	株式会社北海道博報堂 　クリエイティブ・プランニング局長 　　エクゼクティブクリエイティブディレクター 　　長岡　晋一郎　様 　ビジネスデザイン局局長　南大介様 　新どさんこ研究所　所長　山岸　浩之　様 北海道経済連合会 　食クラスターグループ統括部長　椿淳様 　食クラスターグループ部長　渋沢淳一様 北海道静内農業高等学校 　教諭　平岡賢一　教諭　千代武志 　教諭　八尾健太郎　教諭　田中彩佳	事業内容に関する打合せ
2 月 22 日(火)	オンラインミーティング	国分北海道株式会社 　経営統括部長兼人事総務部長兼地域共創部長 　　青山知夫様 　人事総務部人事総務課長　橋本吉人様 北海道経済連合会 　食クラスターグループ統括部長　椿淳様 　食クラスターグループ部長　渋沢淳一様 　食クラスターグループ部長　小笠原誠様 北海道静内農業高等学校 　教諭　平岡賢一　教諭　千代武志 　教諭　八尾健太郎　教諭　田中彩佳	令和 4 年度事業に関する打合せ
2 月 23 日(水)	生活協同組合コープさっぽろ静内店	生活協同組合コープさっぽろ 　専務理事　中島則裕様 　苫小牧地区本部長　今野雄一様 　室蘭苫小牧地区組織統括　中村博様 北海道静内農業高等学校 　校長　佐藤裕二　教頭　加藤和則 　教諭　平岡賢一	令和 4 年度事業に関する打合せ

2 月 25 日(金)	国分北海道株式会社	国分北海道株式会社 経営統括部長兼人事総務部長兼地域共創部長 青山知夫様 人事総務部人事総務課長　橋本吉人様 北海道静内農業高等学校 教諭　平岡賢一	令和４年度事業に関する打合せ
2 月 25 日(金)	北海道経済連合会	北海道経済連合会 食クラスターグループ統括部長　椿淳様 食クラスターグループ部長　渋沢淳一様 食クラスターグループ部長　小笠原誠様 北海道静内農業高等学校 教諭　平岡賢一	令和４年度マイスター・ハイスクール事業に関する打合せ
2 月 25 日(金)	オンラインミーティング	ＮＴＴドコモ北海道支社法人営業部 ICT ビジネスデザイン担当　秋山紗英様 フロント SE 担当　伊藤由悟様 北海道静内農業高等学校 教諭　平岡賢一　教諭　小山内一弘 教諭　土田隆太	講演事業に関する打合せ

11　目標の進捗状況，成果，評価

(1) 定量的目標

ア　評価方法

本事業で定めた定量的目標は次のとおりである。

ア	地域に魅力を感じ，愛着を持った生徒の割合	‥‥在籍者の 80%以上
イ	地域の課題を発見し，解決に向けて多面的・論理的に考え，行動できた生徒の割合	‥‥在籍者の 80%以上
ウ	将来，地域のために貢献したいと考え，行動できた生徒の割合	‥‥在籍者の 80%以上
エ	様々な産業人との交流を通し，自身の進路について考えることができた生徒の割合	‥‥在籍者の 80%以上
オ	自身が目指す進路に関連した資格取得を積極的に行えた生徒の割合	‥‥在籍者の 80%以上
カ	IT や ICT，IoT の役割を理解し，活用することができる生徒の割合	‥‥在籍者の 80%以上
キ	卒業後，即就農及び地域の主要産業への就職者の割合	‥‥卒業生の 50%以上
ク	卒業後，就農及び地域の技術者を目的とした進学者の割合	‥‥卒業生の 40%以上
ケ	英語で日常的なコミュニケーションができるようになった人の割合	‥‥卒業生の 30%以上
コ	在学中に海外の人と交流した人数	‥‥卒業生の 50%以上
サ	将来的な新規参入を目指して進学または雇用就農した人数	‥‥3 人以上(3 年間累計)

このうち，目標ア～カ，ケ，コについては，アンケート調査により生徒の意識の変容を調査することとした。目標キ，ク，サについては，卒業生の進路動向から結果をまとめることとした。

定量的目標のア～カ，ケ，コに関わるアンケート調査は全校生徒を対象に６月と 12 月に実施した。新ひだか町に対して「魅力・愛着」がもて，「課題」を理解し，地元での「将来」について考えることができたかを測定した。「進路」「資格取得」「ＩＣＴ」「英語教育」などへの考えがどのように変化したかを測定した。アンケートはいずれも，「大いにあてはまる」を４，「あてはまる」を３，「あまりあてはまらない」を２，「まったくあてはまらない」を１として回答することとした。アンケートの集計にあたっては，結果を明確に判断するため，肯定的な評価をした生徒の割合から生徒の意識の変容を図ることとした。なお，アンケート調査の内容は次のとおりである。

【魅力・愛着】
(1) 新ひだか町は気候が快適で住みやすい。
(2) 新ひだか町は道路や交通の便が良い。
(3) 新ひだか町は自然資源が豊かである。
(4) 新ひだか町にはおいしい食べ物がある。
(5) 新ひだか町には誇れる特産物がある。
(6) 新ひだか町には誇れる植物・動物がある。
(7) 新ひだか町には誇れる町の歴史がある。
(8) 新ひだか町は情報発信（掲示板，パンフレット，ホームページ，ＳＮＳ）が充実している。
(9) 新ひだか町が好きである。
(10) 新ひだか町の企業に興味がある。
【課題】
(1) 新ひだか町が抱える問題について聞いたことがある。
(2) 新ひだか町が抱える問題について生活していて感じたことがある。
(3) 新ひだか町が抱える問題について学校などで考える機会がある。
(4) 新ひだか町が抱える問題の原因について理解している。
(5) 学校で学習した内容が，新ひだか町が抱える問題の解決につながる。
(6) 学校で学習する内容を活用して，新ひだか町が抱える問題を解決できる。
【将来】
(1) 将来新ひだか町のために貢献したいと考えている。
(2) 卒業後すぐに新ひだか町の企業への就職を考えている。
(3) 卒業後５年以内で，新ひだか町の企業への就職を考えている。
(4) 卒業後 10 年以内で，新ひだか町の企業に就職を考えている。

【進路】
(1) 企業の方の講演を聞いたことがある。
(2) 企業の方とセミナーなどで意見を交流させたことがある。
(3) 企業の方の話を聞いて，影響を受けたことがある。
(4) 企業の方と話をして，仕事をすることへの理解を深めた。
(5) 企業の方と話をして，自身の将来について考えた。

【資格取得】
(1) 資格の取得について興味がある。
(2) 資格をたくさん取得したい。
(3) 自身が目指す進路のために，資格取得が必要である。
【ＩＴ・ＩＣＴ・ＩＯＴ】
(1) コンピュータやネットワークを活用することで，生活は豊かになる。
(2) 情報技術を扱うコンピュータの役割を理解し，活用することができる。
(3) コンピュータやネットワークを活用し，コミュニケーションをとることができる。
(4) コンピュータやネットワークを電化製品と連動させて効果的に活用することができる。
【英語教育】
(1) 英語の文法などを理解することができる。
(2) 英語を聞いて内容が理解できる。
(3) 簡単な英語の質問に対して，英語で答えることができる。
(4) 英語を活用して日常的なコミュニケーションをとることができる。
(5) 英語を活用して簡単な文章を書くことができる。
(6) 英語を活用して，論文やレポートを作成することができる。
(7) 海外の人と交流したことがある。
(8) 将来，英語が必要である。

イ　評価結果

本事業で定めた定量的目標に対する評価結果は，次のとおりである。

項　　目	目標値	6 月	12 月	増減
ア　地域に魅力を感じ，愛着を持った生徒の割合	在籍者の80％以上	70.2％	72.5％	2.3P
イ　地域の課題を発見し，解決に向けて多面的・論理的に考え，行動できた生徒の割合	在籍者の80％以上	51.7％	69.1％	17.4P
ウ　将来，地域のために貢献したいと考え，行動できた生徒の割合	在籍者の80％以上	36.5％	48.8％	12.3P
エ　様々な産業人との交流を通し，自身の進路について考えることができた生徒の割合	在籍者の80％以上	47.2％	73.1％	25.9P
オ　自身が目指す進路に関連した資格取得を積極的に行えた生徒の割合	在籍者の80％以上	76.8％	81.0％	4.2P
カ　IT や ICT，IoT の役割を理解し，活用することができる生徒の割合	在籍者の80％以上	75.2％	82.2％	7.0P

キ　卒業後，即就農及び地域の主要産業への就職者の割合	卒業生の50％以上	55.3％（過去３年間平均）	60.0％	4.7P
ク　卒業後，就農及び地域の技術者を目的とした進学者の割合	卒業生の40％以上	18.4％（過去３年間平均）	20.0％（R3 卒業生）	1.6 P
ケ　英語で日常的なコミュニケーションが関わるなった人の割合	卒業生の30％以上	－	24.7％	－
コ　在学中に海外の人と交流した人数	卒業生の50％以上	－	2.2％	－
サ　将来的な新規参入を目指して進学または雇用就農した人数	３人以上（3 年間累計）	－	０人	－

本事業で定めた定量的目標に対する評価結果は，次のとおりである。

11 の目標のうち，「オ　自身が目指す進路に関連した資格取得を積極的に行えた生徒の割合」と「カ　IT や ICT，IoT の役割を理解し，活用することができる生徒の割合」の２項目は目標を達成した。また，アンケート調査で分析する７項目はすべて増加した。

「エ　様々な産業人との交流を通し，自身の進路について考えることができた生徒の割合」は，６月の 47.2％から 12 月 73.1％と 25.9 ポイント増加した。目標達成には至らなかったものの，実施初年度であること考慮すると良好な結果が得られた。本年度は事業計画として７項目を設定しているが，そのうち「①生徒が主体的に町の現状と将来像，地域産業の現状を把握して考察」「②新ひだか町長による地域が求める人材や職業人に関わる講話」「③職業人材による講話などを踏まえ，生徒が地域の将来について考察」「⑤施設見学及び実習など施設・設備の共同利用（産業界，農業関連施設，大学など）」の４項目において，様々な企業や団体の職業人材による指導を実施したことにより，生徒は大きな影響を受け好ましい方向へ変容したと考えられる。

「ウ　将来，地域のために貢献したいと考え，行動できた生徒の割合」については，６月の 36.5％から 48.8％と 12.3 ポイント増加したものの，今回の評価結果の中では目標に最もかけ離れた結果となった。職業人材による講話などが十分に行えた反面，生徒が地域の課題解決のために取り組む活動が不足していたためと考えられる。そのため，今後は地域の課題解決に取り組むプロジェクト学習や実践的な企業実習であるデュアル派遣実習などを通して，農業の振興や社会貢献に主体的に取り組む能力や態度を生徒に身に付けさせることが重要と考える。

「ク　卒業後，就農及び地域の技術者を目的とした進学者の割合」は，令和２年度の 18.4％から 20.0％と 1.6 ポイント増加したものの，目標の半分にとどまっている。このことから，今後の事業実施にあたり，食品や園芸，競走馬生産に関する職業理解を進めることに加えて，新規就農や雇用就農などのロードマップを整備するなどの改善が必要と考えられる。

(2) 定性的目標

ア　評価方法

本事業で定めた定性的目標は次のとおりである。

ア　【自己認識】　自分を客観視する力，自分に対する自信ややり抜く力
イ　【意　　欲】　物事に対して意欲的に取り組める力
ウ　【忍耐力】　根気強く物事にあたる力
エ　【自制心】　自分自身の感情や欲望などをうまくコントロールする力
オ　【メタ認知ストラテジー】　自分が今置かれている状況や理解度を把握する力
カ　【社会性】　リーダーシップがとれ，他者とのコミュニケーションがとれる力
キ　【回復力と対処能力】　問題が起こった時にすぐに立ち直れる，またそれに対応できる力
ク　【創造性】　ものを作ったり，工夫したりする力

定性的目標はすべてアンケート調査により生徒の意識変容を調査することとした。

定性的目標に関わるアンケート調査は全校生徒を対象に６月と 12 月に実施した。各項目とも５つの設問に対して「大いにあてはまる」を４，「あてはまる」を３，「あまりあてはまらない」を２，「まったくあてはまらない」を１として回答することとした。アンケートの集計にあたっては，結果を明確に判断するため，肯定的な評価をした生徒の割合を測定することで生徒の意識の変容を図ることとした。なお，アンケート調査の内容は次のとおりである。

【自己認識】
(1) 自分を客観的に見て考えることができる。
(2) 自分の個性を理解し，高めようとしている。
(3) 自分の短所を理解し，改善しようとしている。
(4) 自信を持って発言や行動をすることができる。
(5) 自分が決めたことや与えられたことを最後までやり抜くことができる。
【意欲】
(1) 何事にも興味や関心を見いだし，意欲的に取り組むことができる。
(2) わからないことがあっても，積極的に聞いたり調べたりして，答えを導こうとする。
(3) 常に目標を持って行動している。
(4) より知識や技能を身に付けて，自分を成長させたい。
(5) 自分が持っている能力を最大限に生かして，社会のために役立ちたい。
【忍耐力】
(1) 目標に向かって継続して努力することができる。
(2) 堅実にコツコツと努力することができる。
(3) 途中で投げ出すことなく，最後まで粘り強く取り組むことができる。
(4) 困難な課題があっても，根気強くあきらめることなく取り組むことができる。
(5) ストレスとうまくつき合うことができる。
【自制心】
(1) 自分の感情をコントロールして，冷静に行動することができる。
(2) 自分の思い通りにいかなかった時やうまくいかなかった時に，怒りの感情を抑えることができる。
(3) 自分で決めたことは必ず守る。
(4) 切り替えが早い。
(5) 全体の利益のために，自分の欲を抑え協調性を持って行動することができる。
【メタ認知ストラテジー】
(1) 自身の状況を的確に把握することができる。
(2) 自身の課題を明確に理解することができる。
(3) 場面や状況に応じた行動をすることができる。
(4) 自分がどの程度理解できているかを把握することができる。
(5) 課題に対して，どのような解決策が効果的であるかを考えることができる。
【社会性】
(1) 自ら進んで，他者とコミュニケーションをとることができる。
(2) 自分の意見を相手に伝えることができる。
(3) 自分が中心となって話を進めることができる。
(4) 他の人のことを尊重しながら行動することができる。
(5) チームワークを大切にし，まとめることができる。
【回復力と対処能力】
(1) 嫌なことがあっても，前向きに考えることができる。
(2) 問題が起こったときに，リスクを特定し，冷静に対応することができる。
(3) 相手の拒否反応やネガティブな出来事に対して，うまく対応することができる。
(4) 状況を多角的に見て，想像的かつ柔軟に考えることができる。
(5) 望ましい結果が得られるよう，自分の考え方を変化させることができる。
【創造性】
(1) 何もない状態から，何が必要かを考え，ものを作り出すことができる。
(2) 与えられたことだけはなく，自分で考え行動することができる。
(3) 話し合いなどで，多くのアイデアを出すことができる。
(4) 他の人とは違うオリジナリティーのあるアイデアを出すことができる。
(5) 物事がより効果的に進むように，工夫して行動することができる。

イ　評価結果

定性的目標の評価結果は次のとおりである。

項　　目		6月	12月	増減
自己認識	自分を客観視する力，自分に対する自信ややり抜く力	67.6%	80.8%	13.2P
意　　欲	物事に対して意欲的に取り組める力	66.6%	81.7%	15.1P
忍耐力	根気強く物事にあたる力	63.5%	75.1%	11.6P
自制心	自分自身の感情や欲望などをうまくコントロールする力	63.9%	76.5%	12.6P
メタ認知ストラテジー	自分が今置かれている状況や理解度を把握する力	65.2%	79.0%	13.8P
社会性	リーダーシップがとれ，他者とのコミュニケーションがとれる力	60.8%	72.3%	11.5P
回復力と対処能力	問題が起こった時にすぐに立ち直れる，またそれに対応できる力	64.5%	72.1%	7.6P
創造性	ものを作ったり，工夫したりする力	60.8%	72.3%	11.5P

生徒アンケート結果を集計し６月と 12 月の結果で比較したところ，全ての項目で増加していた。特に生徒の「意欲」が 66.6%から 81.7%へと 15.1 ポイント増加した。本事業の実施内容として「生徒が主体的に町の現状と将来像，地域産業の現状を把握して考察」「新ひだか町長による地域が求める人材や職業人に関わる講話」「職業人材による講話などを踏まえ，生徒が地域の将来について考察」「施設見学及び実習など施設・設備の共同利用（産業界，農業関連施設，大学など）」の４項目において実施した様々な企業や団体の職業人材による授業などを通して，生徒は自己の学習や進路について前向きに考えることができるようになったためと考えられる。また，「回復と対処能力」以外の項目は 11.4 ポイントから 13.8 ポイントの間で増加しており，少しずつではあるが生徒の意識の変容が見られた。定性的目標は到達目標を設定していないため，この事業に複数年取り組む現在の 1 年生と２年生については，継続的に調査しその変容を分析することが重要と考えられる。

「回復力と対処能力」は，72.1%と 7.6 ポイント増加にとどまっており，12 月の調査で最も低かった。定量的目標の項目「将来，地域のために貢献したいと考え，行動できた生徒の割合」が 12 月の調査で 48.8%と最も低かったことと併せて考察すると，生徒が地域発展のためにプロジェクト学習やデュアル派遣実習等の実践的な学習や，農業生物を活用した異世代交流など多様な取組を繰り返すことで，改善を図ることができるものと考えられる。

(3) 成果　（「10　事業の実績」における記号に対応している）

ア　生徒が主体的に町の現状と将来像，地域産業の現状を把握して考察

(ｱ)　「日高の農業を知る」学習では，地域の農業実態や，担い手の不足が日高だけではなく全国的な課題であることを理解することができた。

(ｲ)　「未来の日高農業の展望」学習では，地域産業の抱える課題の解決方法や，課題の解決を多面的に捉えて考えることの大切さを理解することができた。

イ　新ひだか町長による地域が求める人材や職業人に関わる講話

「新ひだか町長と地域の未来を考える会」では，地域が抱える問題について主体的に生徒に考えさせることができた。また，生徒は大野町長の講評から地域の課題解決を期待されていることを理解し，学習に取り組む意欲を新たにすることができた。

ウ　職業人材による講話などを踏まえ，生徒が地域の将来について考察

企業や大学，関係機関や団体などの専門的職業人材による授業を通して，食品，園芸，馬事に関する専門的な知識や技術を学ぶとともに，産業界や企業の実態を理解し，生徒が地域を支える人材であることの自覚や認識を高めるために実施した各事業の成果は次のとおりである。

(ｱ) 食品科学科

「食品流通のしくみと働き」の学習では，食品の流通の仕組みや特徴など体系的な知識や技術を理解することができた。

「食品表示」の学習では，一括表示や栄養成分表示などの表示方法を理解することができた。また，食品表示検定という資格を紹介していただき，各種検定に対する理解を深め，受験に挑戦する意欲を高めることができた。

「食品加工」「原料生産」の学習では，原料調達，ブランディングやマーケティングなど農業や食品産業の各分野に関連する体系的な知識や技術を理解することができた。また，農業生産や食品製造には生物や化学の知識が求められ，教科横断的な学びが重要であることに気付くことができた。

「食品の栄養」の学習では，食品の栄養成分や機能性食品の特性など食品栄養に関する体系的な知識や技術を理解することができた。また，食品に関わる様々な職種や職業を知ることで，キャリア形成に欠かせない，職業観や勤労観を育むことができた。

「商品開発」の学習では，インターネット時代の購買行動モデルや４Ｐ理論など，商品開発の流れに関する系統的な知識や技術を理解することができた。

「市場調査・環境分析，食のマーケティング」の学習では，企業におけるマーケティングの果たす役割や消費動向の把握など，マーケティングの重要性や，商品開発の一連の流れに関連する系統的な知識や技術を生徒に理解させることができた。

「食品関連産業の実態」の学習では，商品の開発から製造，衛生管理やブランディングなど，企業の一連の取組を理解することができた。

「北海道の食品流通」の学習では，商品のＰＲ方法や地域の食材を生かした商品開発など，今後の商品開発につながる重要な知識や技術と，よりよい社会の構築を目指して主体的に取り組むことの大切さを理解することができた。

「食の安全，安心」の学習では，「食品をより安全にするための５つの鍵」や，製造工程における危害要因など，食品の安全に関する知識や技術を系統的に理解することができた。また，食を取り巻く環境のグローバル化についても理解が深まった。

(ｲ) 生産科学科馬事コース

「馬の蹄」の学習では，蹄の構造と飼養管理との関連性など，蹄管理の知識や技術と，馬の飼育管理や蹄管理における課題を合理的に解決する能力を身に付けることができた。

「馬の獣医療」の学習では，競走馬に多発する骨，筋肉，腱に関する病気など，競走馬の特性や，飼育に関する課題を理解することができた。

「馬の産業」の学習では，オーストラリアやアメリカ，日本の競馬産業の特長や違

いなど，日本の競馬産業を客観的に理解することができた。

「大動物の医療」の学習では，免疫機構やウイルスなど大動物の免疫機能に関する系統的な知識や技術を理解するとともに，獣医師志望者や大学進学志望者にとって，学習意欲の喚起を図る貴重な機会とすることができた。

(ｳ) 生産科学科園芸コース

「農薬の特性と防除」の学習では，病害虫の種類や診断方法など病虫害の発生要因と診断のポイントに関する知識や技術を理解することができた。

「土壌の管理と改良」の学習では，土壌の種類や生理障害など，土壌と作物の生育に関する体系的な知識や技術を理解することができた。

「農業における情報の分析と活用」の学習では，生徒の農業に関するものの見方や考え方を深める重要な機会とすることができた。

「地域園芸の特性と栽培技術」の学習では，地域の主力園芸作物の栽培上の課題を理解することができた。また，栽培に関するものの見方や考え方を深め，主体的に課題解決に取り組む態度を養うことができた。

「GAP を活用した生産工程の管理」の学習では，GAP に基づいた効率的な栽培管理を理解するとともに，生産性向上や農業経営の発展に関心を高める機会とすることができた。

「農業の起業家計画」の学習では，新規就農への道のりや担い手不足など農業が抱える課題の解決を考えることができた。

「新たなアグリビジネスへの取組」の学習では，６次産業化など農業経営における高付加価値化の重要性を理解することができた。

(ｴ) 学科共通事業

「北海道の食品流通を学ぶ講演会」では，地域貢献に対する企業の取組や，人口減少など地域の抱える課題について理解することができた。また，地域の課題についてどのように取り組むべきか，考える重要な機会とすることができた。

「農業や地域の魅力を発見，発信する」学習では，農業の面白さや新ひだか町の魅力を発信することの大切さを理解することができた。

「新しいアグリビジネス」の学習では，食品の輸出を身近なものとして，理解することができた。また，農業のグローバル化について考える重要な機会とすることができた。

科目「課題研究」では，調査や実験，試作などにより，職業的な能力を高めることができた。また，講習会や体験学習の企画など，学習内容をより確実に定着させることにつなげることができた。さらに，学んだ知識や技術を生かして各種コンテストや発表会にも参加することで，プレゼンテーション能力を大きく向上させることができた。

プロジェクト学習の取組は，課題解決における知識や技術を高めるうえで重要な学習活動であることから，本事業における専門的な知識，技術を有する職業人材との連携することにより，その効果をいっそう高めることができると考えられる。

エ　教育課程の刷新の方向性を検討・改善（次年度，学校設定科目を設定）

(ｱ) 令和４年度入学生教育課程について

２年生において，学校設定科目「英語研究」（１単位），「数学研究」（１単位），３年生において学校設定科目「英語研究」（１単位），「数学研究」（１単位）を選択科目

として設定する。獣医師志望者や４年制大学志望者に対する学習を強化することを目的として実施する。

食品科学科において，２年生「作物」（２単位），３年生「畜産」（２単位）を減じ，２年生に学校設定科目「商品開発Ⅰ」（２単位），３年生に学校設定科目「商品開発Ⅱ」（２単位）を設定する。学科の専門性を明確にし，「食品製造」「食品化学」「食品流通」「食品微生物」で学んだ知識や技術を活用する目的で実施する。

学校設定科目「デュアル派遣実習」を２年生（１単位）に設定し，３年生（１単位）を増単する。新ひだか町内に食品に関わる企業が少ない現状を考慮し，長期休業を活用した実践的な企業実習を行い，社会に有為な人材を育成することを目的に実施する。

３年生の選択科目「商品開発」（２単位）を減じ，「畜産」（２単位）を３年生の選択科目として設定する。６次産業化に対応し原料生産の基本を学ぶ目的で実施する。

生産科学科おいて，２年生の共通履修科目「農業経営」（２単位）を減じ，園芸コースは「野菜」（１単位）「草花」（１単位）を増単して実施する。２年生の馬事コースは「馬学」（１単位）「馬利用学」（１単位）を増単して実施する。

３年生の園芸コースは「野菜」（２単位），「草花」（２単位），馬事コースは「馬学」（１単位）「馬利用学」（１単位）を減じて，学科共通履修科目として「農業経営」（２単位）を設定する。園芸コースは「栽培と環境」（２単位）を設定する。教科内における学習の系統性を重視し，年次進行に伴い発展的な内容とすることを目的に実施する。

(ｲ) 令和４年度学年別教育課程について

２年生において，学校設定科目「英語研究」（１単位），「数学研究」（１単位），３年生において学校設定科目「英語研究」（１単位），「数学研究」（１単位）を選択科目として設定する。獣医師志望者や４年制大学志望者に対する学習を強化することを目的として実施する。

食品科学科おいて，２年生の選択科目「作物」（２単位）「畜産」（２単位）を減じ，学校設定科目「商品開発Ⅰ」（２単位）を設定する。３年生の選択科目「作物」(2 単位)「畜産」(2 単位)を減じて，学校設定科目「商品開発Ⅱ」（２単位）を設定する。「総合実習」（２単位）を減じ，３年生に選択科目「畜産」（２単位）を設定する。学科の専門性を明確にし，「食品製造」「食品化学」「食品流通」「微生物利用」で学んだ知識や技術を活用する目的で実施する。

学校設定科目「デュアル派遣実習」（１単位）を２年生に設定し，３年生（１単位）を増単する。新ひだか町内に食品に関わる企業が少ない現状を考慮し，長期休業を活用した実践的な企業実習を行い，社会に有為な人材を育成することを目的に実施する。

選択科目「総合実習」(2 単位)を減じて，「畜産」(2 単位)「作物」(2 単位)を選択科目として実施する。６次産業化に対応し，原料生産の基本を学ぶ目的で実施する。

生産科学科において，３年生の選択科目「総合実習」（２単位）を減じ，学校設定科目「栽培と環境」（２単位）を設定する。栽培植物の育成に必要な栽培技術と環境の関わりについて学習することを目的に実施する。

オ　施設見学及び実習など施設・設備の共同利用（産業界，農業関連施設，大学など）

(ｱ) 食品科学科

「食のバリューチェーン」の学習では，食品流通における食品の品質管理や物流システムについて，理解することができた，また，食品業界に対する関心を高めることができた。

「原料生産」の学習では，農業の現状を正しく理解するとともに，試験研究が農業の振興に果たす役割について，理解することができた。

(ｲ) 生産科学科馬事コース

「競走馬の初期育成」の学習では，日常の躾と調教に関わる実習を通して実践的に学ぶことができた。競走馬の育成・販売における躾や調教の重要性について生徒に理解させるとともに，実践的な実習によって生徒一人ひとりが躾や調教の技術を向上させることができた。

「馬の産業」の学習では，競馬に関わる関係団体や施設などの種類や役割を理解することができた。

「競走馬の繁殖」の学習では，馬の繁殖や栄養に関する体系的な知識と技術を身に付けることができた。

「乗馬」の学習では，整った施設で学校で実習するよりも多くの実習経験を積むことができた。また，乗馬に関する実践的な技術の向上を図ることができた。

「馬の調教と利用」の学習では，競走馬の個体に応じた調教技術を身に付けることができた。

「馬の獣医療」の学習では，獣医療に関する基本的な知識や技術を理解することができた。また，獣医師を志す生徒にとって，貴重な学習の動機付けとすることができた。

(ｹ) 生産科学科園芸コース

「日高の農業を知る」学習では，栽培体系の違いによる収量特性の違いを生徒に理解させることできた。また，ＩＣＴの活用など，地域農業の実態や課題の解決方法を生徒に理解させることができた。

(ｺ) 「上級学校を知る」学習では，大学の概要や農学部の研究内容について生徒に理解させることができた。また，大学院生との交流を通して大学生の学習や生活のイメージを膨らますことができとともに，卒業後のキャリア形成について，考える貴重な機会とすることができた。

(ｻ) 「ｅコマース」の学習では，インターネットを活用した販売活動を実践することができた。また，地域資源の種類や魅力を再発見することができた。

(ｼ) 「国際交流」の学習では，英語を活用した生徒のコミュニケーション能力を高めることができたとともに，グローバルな視点から文化の違いを理解することの大切さを理解することができた。

(ｽ) 「異文化理解」では，流ちょうな英語を話すことよりも，様々な方法で相手に自分の考えを正しく伝えることの大切さを理解することができた。また，英語を活用したコミュニケーション能力が高まった。

(ｾ) 「農業分野の国際協力」の学習では，農業を学ぶことで広がる自己のキャリア形成について，主体的に考えることができた。また，英語を学ぶことや農業を学ぶことの重要性について考え，学習意欲の向上を図る貴重な機会とすることができた。

カ　各種検定試験（資格）に対する理解を深め，受験に挑戦する心身の醸成及び受験

全校生徒を対象に資格取得講習会を実施し，資格取得の意義や具体的な学習方法，受験日時などの説明を行った。これを通して，生徒は１年間の学習について見通しをもって取り組むことができた。

実用英語技能検定と農業技術検定は，昼休み，放課後を活用して講習会を実施すると

ともに，希望者に対して個別の添削指導を行うことで，合格にむけて意欲的に学習に取り組む様子が見られた。

食品表示検定では，「食品表示」の講座でご指導いただいた国北海道株式会社人事総務部　松本　智貴　様によるオンラインでの試験対策講座を実施した。豊富な資料や問題集を活用した出題範囲の解説を受けることで，充実した事前学習に取り組むことができた。

キ　キャリア・パスポートの活用（指定期間において継続して活用）

進路指導部において，国立教育政策研究所が示したキャリア・パスポートを参考事例として，本校の実態に合わせたキャリア・パスポートを作成したことにより，３年間の学びと生徒自身のキャリア形成の関係性について，生徒に見通しをもたせることができた。

また，ＬＨＲなどの時間を活用して活動状況を記入することで，「振り返り」と「見通し」を繰り返し行った結果，生徒の学習や生活への意欲向上につながるとともに，将来の生き方を考える機会にすることができた。

キャリア・パスポートを生徒の高校生活３年間を見据えた効果的な指導ツールとするために，記載内容の調整や指導の時期，振り返り資料の蓄積方法など，校内の指導体制を整備する必要がある。

(3) 運営委員による評価

ア　評価方法

運営委員による評価は，１月 28 日(金)に実施した第３回運営委員会開催後に行った。第３回運営委員会では，今年度の事業報告とアンケート結果及び定量的目標と定性的目標の評価結果の説明，次年度の実施計画における重点などの説明を実施した。この説明の後，15 の設問に対して，「大いにあてはまる」を４，「あてはまる」を３，「あまりあてはまらない」を２，「まったくあてはまらない」を１として回答していただいた。アンケートの集計にあたっては，それぞれの質問に対する評価者の割合と，評価平均を算出した。なおアンケートの調査内容は次のとおりである。

【事業の内容について】
・地域の理解や郷土愛の醸成に関する教育，地域と連携した事業を行ったことは，生徒の将来（進路）に有意義である。
・本事業は，好調をはじめ，マイスター・ハイスクール CEO を中心に組織的・計画的に運営されている。
・生徒の変容を促す効果的な授業や講演などの機会が適切に設定されている。
・本事業は地域産業の課題解決の一助を担っている。
・本事業で育成された人材（生徒）は地域産業の持続的発展をけん引するイノベーターとして期待が持てる。
【教育と指導について】
・１年目の本事業は，事業計画に基づき適切かつ計画的に実践されている。
・本事業は各種検定試験対策（資格）に対する理解を深め，受験に挑戦する心身の醸成や受験につながっている。
・本事業で実施した授業や講演会などは，目指す人材育成に効果的である。
・本事業における自治体や産業界と一体・同期化した取組は，生徒の学習効果の充実につながっている。
・本事業における自治体や産業界と一体・同期化した取組は，教職員の意識改革につながっている。
【全体評価】
・本事業を通じて，生徒の資質・能力が向上し，生徒の地域に対する意識の変容が見られた。
・本事業を通じて，地域住民及び保護者，関係機関などの地域課題への意識が変化した。
・本事業を通じて，教育課程の刷新の方向性が検討され，改善につながっている。
・本事業の運営委員会や事業推進委員会は効果的に機能した。
・本事業の内容や取組は，地域創生に寄与している。

イ　評価結果

運営委員による評価結果は次のとおりである。

	質問項目	大いにあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	評価平均
事業の内容	地域の理解や郷土愛の醸成に関する教育，地域と連携した事業を行ったことは，生徒の将来（進路）に有意義である。	57.1%	28.6%	14.3%	0.0%	3.14
	本事業は，校長をはじめ，マイスター・ハイスクール CEO を中心に組織的・計画的に運営されている。	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%	3.43
	生徒の変容を促す効果的な授業や講演などの機会が適切に設定されている。	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%	3.43
	本事業は地域産業の課題解決の一助を担っている。	14.3%	85.7%	0.0%	0.0%	3.14
	本事業で育成された人材（生徒）は地域産業の持続的発展をけん引するイノベーターとして期待が持てる。	28.6%	71.4%	0.0%	0.0%	3.29
教育と指導について	１年目の本事業は，事業計画に基づき適切かつ計画的に実践されている。	28.6%	71.4%	0.0%	0.0%	3.29
	本事業は各種検定試験対策（資格）に対する理解を深め，受験に挑戦する心身の醸成や受験につながっている。	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	3.00
	本事業で実施した授業や講演会などは，目指す人材育成に効果的である。	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%	3.43
	本事業における自治体や産業界と一体・同期化した取組は，生徒の学習効果の充実につながっている。	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	3.71
	本事業における自治体や産業界と一体・同期化した取組は，教職員の意識改革につながっている。	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%	3.43
全体評価	本事業を通じて，生徒の資質・能力が向上し，生徒の地域に対する意識の変容が見られた。	14.3%	85.7%	0.0%	0.0%	3.14
	本事業を通じて，地域住民及び保護者，関係機関などの地域課題への意識が変化した。	14.3%	85.7%	0.0%	0.0%	3.14
	本事業を通じて，教育課程の刷新の方向性が検討され，改善につながっている。	14.3%	85.7%	0.0%	0.0%	3.14
	本事業の運営委員会や事業推進委員会は効果的に機能した。	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	3.00
	本事業の内容や取組は，地域創生に寄与している。	14.3%	85.7%	0.0%	0.0%	3.14

運営委員からの評価は，評価者の割合，評価平均の２つの指標とも，全体として肯定的なものとして捉えることができる。特に「本事業における自治体や産業界と一体・同期化した取組は，生徒の学習効果の充実につながっている。」については，「大いにあてはまる」とした委員が 71.4%，評価平均も 3.71 と最も高かった。これは，本事業の取組により，定量的目標の「イ　地域の課題を発見し，解決に向けて多面的・論理的に考え，行動できた生徒の割合」の評価結果が６月の 51.7%から 12 月の 69.1%と 17.4 ポイント上昇したことと，「エ　様々な産業人との交流を通し，自身の進路について考えることができた生徒の割合」の評価結果が６月の 47.2%から 12 月の 73.1%と 25.9 ポイント上昇し，好ましい生徒の変容を確認したためと考えられる。

一方で「地域の理解や郷土愛の醸成に関する教育，地域と連携した事業を行ったことは，生徒の将来（進路）に有意義である。」の評価項目のみ，「あまりあてはまらない」とした委員の割合が 14.3%であった。定量的目標の「ク　卒業後，就農及び地域の技術者を目的とした進学者の割合」の評価結果が，今年度 20.0%と目標の半分にとどまっている点と，今年度は事業実施１年目であり，本事業の実施内容と生徒の進路選択の関

係性が評価しづらかったことが一因と考えられる。

12　次年度以降の課題及び改善点

当初の事業計画により，今年度の「発見」というテーマで得られた学びをもとに，生徒に必要な資質や能力の向上を図り，次年度の「挑戦」をテーマにつながるよう確実に本事業を進めてきた。

今年度の取組から課題として，定量的目標の評価結果にあるように「将来，地域のために貢献したいと考え，行動できた生徒の割合」の評価項目は48.8%と大きく目標に届いていない状況があげられる。

そのため，農業に関する課題を解決する力の向上を目指して自ら学び，農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を生徒が身に付ける必要がある。そこで，現在取り組んでいるデュアル派遣実習とプロジェクト学習の改善と充実を図ることを計画している。

まず，デュアル派遣実習については，ガイダンス機能の充実や実習時における目標設定や振り返りなどの指導を充実させるとともに，特に食品科学科においては食品製造業が少ない新ひだか町の実態を踏まえ，町外の協力企業の確保と，長期休業中の実施など実施形態の改善を図る。

プロジェクト学習の実施に当たっては，地域の実態に即した学習活動を行うため，産業現場の第一線で活躍されている企業の社員や農業関係機関などの専門的知識・技能を有する職業人材の方々に課題設定や研究計画の立案，実施に関してご指導いただくなど内容の充実を図る。

次年度は，この２点に重点を置いて事業を計画し，生徒の思考力，判断力，表現力を高める深い学びに取り組ませながら，郷土愛が高まるよう事業を推進していく計画である。